

IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server 接続ガイド: IBM
InfoSphere Master Data
Management へのアクセス編**



IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server 接続ガイド: IBM
InfoSphere Master Data
Management へのアクセス編**



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、23 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4359-00

IBM InfoSphere Information Server

Version 11 Release 3

IBM InfoSphere Information Server

Connectivity Guide for Accessing IBM

InfoSphere Master Data Management

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

第 1 章 IBM InfoSphere Master Data Management. 1

MDM Connector ステージを使用するジョブのデザイン.	1
メタデータのインポート	1
MDM Connector ステージを含むジョブの定義	2
MDM サーバーへの接続の定義	3
MDM サーバーからのデータの読み取り	3
MDM サーバーへのデータの書き込み	7
参照	10
InfoSphere MDM から InfoSphere DataStage への データ・タイプのマッピング	10
MDM Connector のプロパティ	10

第 2 章 環境変数: MDM Connector ステージ 13

CC_JVM_OPTIONS	13
CC_MSG_LEVEL	13

付録 A. 製品のアクセシビリティ	15
-----------------------------	----

付録 B. IBM の窓口	17
-------------------------	----

付録 C. 製品資料へのアクセス	19
----------------------------	----

付録 D. 製品資料に関するフィードバック の提供	21
--	----

特記事項および商標	23
---------------------	----

索引	29
--------------	----

第 1 章 IBM InfoSphere Master Data Management

InfoSphere Master Data Management (MDM) Connector を使用して、InfoSphere Master Data Management Standard Edition にアクセスし、メンバー読み取り (MemGet) およびメンバー書き込み (MemPut) などのさまざまな MDM 対話を実行します。

MDM Connector ステージは、MDM サーバーとの間でデータを読み書きするために、メンバー読み取り対話用およびメンバー書き込み対話用に構成できます。「メンバー読み取り」と「メンバー書き込み」という語は、読み取り操作と書き込み操作を指します。「InfoSphere MDM」という語は、仮想 MDM サーバーを指します。

MDM Connector ステージを使用するジョブのデザイン

ジョブの中で MDM Connector ステージを使用して、MDM からのデータの読み取りや、MDM へのデータの書き込みを行うことができます。

手順

1. メタデータをインポートします。
2. MDM Connector ステージを含むジョブを定義します。
3. MDM サーバーへの接続を定義します。
4. MDM サーバーからデータを読み取るように MDM Connector ステージをセットアップするには、以下のステップを実行します。
 - a. メンバー読み取りモードに MDM Connector ステージを構成します。
 - b. オプション: ステージのプロパティまたは列を変更します。
 - c. オプション: リジェクトされたデータを管理するリジェクト・リンクを作成します。
5. MDM サーバーにデータを書き込むように MDM Connector ステージをセットアップするには、以下のステップを実行します。
 - a. 入力リンク上の列定義をセットアップします。
 - b. メンバー書き込みモードに MDM Connector ステージを構成します。
 - c. オプション: リジェクトされたデータを管理するリジェクト・リンクを作成します。

メタデータのインポート

データの読み取りおよび書き込みのために MDM Connector を使用する前に、InfoSphere® Metadata Asset Manager を使用して、MDM データ・モデルを表すメタデータをインポートする必要があります。インポートされたメタデータはメタデータ・リポジトリに保存されます。

始める前に

MDM モデルを .xmi ファイルにエクスポートします。メタデータを .xmi ファイルにエクスポートする方法については、MDM メタデータのエクスポートを参照してください。

このタスクについて

以下の MDM データ・モデルに関するメタデータをインポートできます。

- メンバー・タイプ
- セグメント
- セグメント属性
- フィールド

手順

InfoSphere Metadata Asset Manager を使用してメタデータをインポートします。InfoSphere Metadata Asset Manager を使用した、メタデータのインポートについては、IBM Knowledge Center のオンライン製品資料、または IBM® InfoSphere Information Server 共通メタデータ管理ガイド を参照してください。

MDM Connector ステージを含むジョブの定義

MDM サーバーとデータの読み取りおよび書き込みができるようにするには、MDM Connector ステージを含んだジョブを作成する必要があります。その後、必要なステージがあれば追加し、必要なリンクを作成します。

手順

1. InfoSphere DataStage® and QualityStage® Designer Clientで、メニューから、「ファイル」 > 「新規」を選択します。
2. 「新規」ウィンドウで、「パラレル・ジョブ」アイコンを選択し、「OK」をクリックします。
3. 以下のようにして MDM Connector ステージをジョブに追加します。
 - a. パレットで、「データ品質」をクリックします。
 - b. 「MDM Connector」アイコンをキャンバスにドラッグします。
 - c. オプション: MDM Connector ステージの名前を変更します。ステージのジョブ内での役割を表す名前を選択します。
4. ジョブに必要なリンクと追加のステージを作成します。
 - MDM Connector ステージには、アップストリーム・ステージからの入力キー値のセットが必要です。順次ファイルやデータベースなどの任意のソースからのデータを入力データとすることができます。MDM からデータを読み取るジョブの場合、前のステージから MDM Connector ステージへの入力リンクを作成し、次にジョブ内の次のステージを作成します。その後、MDM Connector ステージから次のステージへの出力リンクを作成する必要があります。複数のリンクを介してレコードを送信するために、複数の出力リンクを作成できます。リジェクトされたレコードを管理する場合、リジェクトされたレコードを保持するステージを追加してから、MDM Connector からそのステージへのリジェクト・リンクを追加します。

- MDM にデータを書き込むジョブの場合、ジョブ内の前のステージから MDM Connector ステージへの入力リンクを作成します。リジェクトされたレコードを管理する場合、リジェクトされたレコードを保持するステージを追加してから、MDM Connector からそのステージへのリジェクト・リンクを追加します。

5. ジョブを保存します。

MDM サーバーへの接続の定義

MDM 仮想サーバーに接続し、MDM 対話を実行するには、サーバー名、サーバー・ポート番号、ユーザー名、およびパスワードを指定する、接続を定義する必要があります。

始める前に

MDM Standard Edition サーバーへの接続に使用するユーザー名には、MDM サーバーに対するデータの読み取りまたは書き込みの権限があることを確認してください。

手順

1. ジョブ・デザイン・キャンバスで、コネクタ・ステージのアイコンをダブルクリックして、コネクタのプロパティを開きます。
2. 「プロパティ」ページの「**MDM サーバーのホスト名**」フィールドに、MDM オペレーショナル・サーバーのホスト名を指定します。
3. 「**MDM サーバーのポート番号**」フィールドに、MDM オペレーショナル・サーバーが稼働するポート番号を指定します。
4. 「**ユーザー名**」フィールドと「**パスワード**」フィールドに、MDM サーバーでの認証に使用するユーザー名とパスワードを指定します。

MDM サーバーからのデータの読み取り

MDM Connector ステージを構成して、メンバー読み取り対話を実行することにより、MDM サーバーからデータを読み取ることができます。

始める前に

- メタデータをインポートします。
- MDM Connector ステージを含むジョブを定義します。
- MDM オペレーショナル・サーバーへの接続を定義します。

このタスクについて

次の図は、MDM サーバーからデータを読み取るために、メンバー読み取り対話モードの MDM Connector ステージを使用する例を示します。MDM Connector ステージには、アップストリーム・ステージからの入力キー値のセットが必要です。順次ファイルやデータベースなどの任意のソースからのデータを入力データとすることができます。この例で、MDM Connector は、ODBC Connector ステージから入力キー値を受け取ります。MDM Connector ステージからの出力リンクは、MDM Connector ステージからのレコードをターゲットの順次ファイルに転送します。



図 1. MDM サーバーからデータを読み取るための MDM Connector ステージの使用例

次の図に示すように、MDM Connector ステージは、複数の出力リンクにレコードを送信することもできます。メンバー読み取り対話から、すべての属性の複数の出力リンクに、レコードを送信できます。

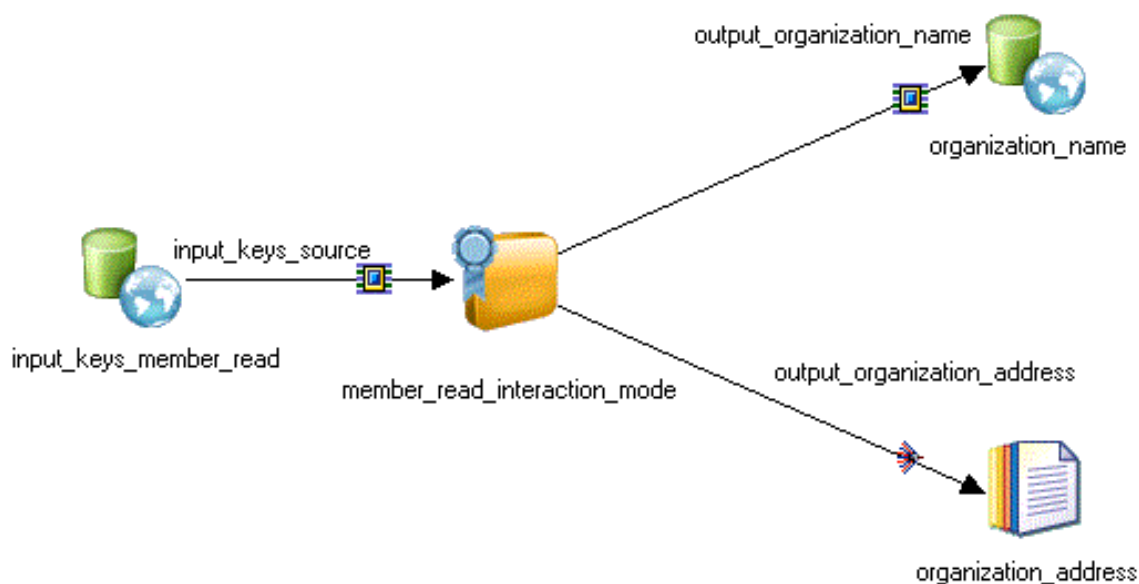


図 2. 複数の出力リンクにレコードを送信するための MDM Connector ステージの使用例

データの読み取りのための MDM Connector の構成

MDM サーバーからデータを読み取ることができるよう、メンバー読み取りモードに MDM Connector を構成する必要があります。

手順

1. MDM Connector をダブルクリックして、MDM Connector ステージのプロパティを開きます。
2. 次のようにして、メンバー読み取り対話を構成します。
 - a. 「プロパティ」ページの「使用法」セクションで、「MDM 対話モード」プロパティを「メンバー読み取り」に設定します。
 - b. 「構成」をクリックします。

- c. 「フィルタリング・オプション」 ペインで、必要なフィールドを設定します。
- d. 「列マッピング」 ペインで、必要なフィールドを設定します。入力キー・タイプとして「ENTRECNO」を指定する場合、「エンティティ・レコード番号」列には、「EntRecNo」フィールドのデータを運ぶ入力リンクからの列を選択します。
- e. 「列のマッピング」 セクションで、列定義を構成する出力リンクを選択します。
- f. 選択された属性から、選択された出力リンクに使用するフィールドを定義します。与えられた属性からすべてのフィールドを選択することも、属性のフィールドを個別に選択することもできます。
- g. 「出力列の設定」 をクリックして、選択された出力リンクに対してフィールドを設定し、「OK」 をクリックします。

ジョブの中に複数の出力リンクを定義した場合は、ジョブの中に定義されたすべての出力リンクに対して、ステップ e から g までを繰り返します。

ステージのプロパティの変更または出力リンクに定義されている列の変更

SQL タイプ、長さ、スケール、および NULL 可能など、リンク上の列定義を変更できます。出力リンク上の列名は MDM モデルに依存するため、変更できません。出力リンク上の列名は、属性と属性内のフィールドの名前との組み合わせです。

手順

1. パラレル・キャンバスで、「MDM Connector ステージ」 をダブルクリックします。
2. 「構成」 をクリックします。
3. 「フィルタリング・オプション」 ペインで、プロパティを編集します。
4. 「次へ」 をクリックします。
5. 選択されている入力キー・タイプに基づいて、入力列をマッピングします。「フィルタリング・オプション」 ペイン内の属性が変更されていない場合は、リンクの出力列を再度マッピングする必要はありません。新しい属性を追加した場合、または「フィルタリング・オプション」 ペインの「メンバー属性」 セクションにある既存の属性セットを変更した場合は、出力リンク上の出力列をマッピングする必要があります。
6. 「OK」 をクリックします。

エラーを含むレコードのリジェクト

MDM Connector にリジェクト・リンクが含まれている場合、指定された条件に一致するレコードはリジェクト・リンクのターゲット・ステージに自動的にルーティングされます。残りのレコードの処理は続行されます。

このタスクについて

リジェクト・リンクの構成に際して、レコードをリジェクトして、リジェクト済みレコードを受け取るターゲット・ステージに送る時期を制御する 1 つ以上の条件を選択します。また、レコードが失敗したときに MDM サーバーによって生成される

エラー・コードとエラー・メッセージを含めることもできます。リジェクト・リンクを定義しない場合、またはリジェクト・リンクは定義したが、失敗したレコードが、指定されたリジェクト条件のいずれにも合致しない場合、コネクタはエラーを報告し、ジョブを停止します。

ジョブを実行した後、リジェクトされたレコードを評価し、それに応じてジョブおよびデータを調整できます。

手順

1. ジョブ・デザイン・キャンバスで、ターゲット・ステージを追加し、リジェクトされたレコードを受け取るように構成します。
2. MDM Connector を右クリックしてターゲット・ステージにドラッグすることにより、MDM Connector からターゲット・ステージへのリンクを作成します。
3. リンクを右クリックし、「リジェクトに変換」を選択します。
4. コネクタをダブルクリックして、ステージ・エディターを開きます。
5. 「出力」ページで、「出力名」リストから、リジェクトされたレコード用のターゲット・ステージへのリンクを選択します。
6. 「リジェクト」タブをクリックします。
7. 「選択された条件に基づいて行をリジェクト」リストから、レコードをリジェクトするために使用する 1 つ以上の条件を選択します。
8. 次の表のいずれかの方法を使用して、リジェクトされた行数が多すぎるためにジョブを停止する場合のタイミングを指定します。

方法	手順
失敗した行のパーセンテージに基づいてジョブを停止する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「異常終了条件」リストから、「パーセント」を選択します。 2. 「リジェクト後に異常終了 (パーセント)」フィールドに、ジョブを停止する場合のリジェクトされた行のパーセンテージを入力します。 3. 「この後にカウントを開始 (行数)」フィールドに、リジェクトされた行のパーセンテージを計算するまでに処理する入力行数を指定します。
失敗した行数に基づいてジョブを停止する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「異常終了条件」リストから、「行数」を選択します。 2. 「リジェクト後に異常終了 (行数)」フィールドに、ジョブが停止されるまでに許される、リジェクトされた行の最大数を指定します。

9. オプション: 「リジェクト行に追加」リストから、「**ERRORCODE**」または「**ERRORMESSAGE**」、あるいは両方を選択します。レコードが失敗すると、リジェクトされたレコードには、エラー・コードと、それに対応する失敗について説明したメッセージが組み込まれます。
10. 「OK」をクリックして、ジョブを保存します。

MDM サーバーへのデータの書き込み

メンバー書き込み対話を実行するように MDM Connector ステージを構成して、MDM サーバーにデータを書き込むことができます。

始める前に

- メタデータをインポートします。
- MDM Connector ステージを含むジョブを定義します。
- MDM オペレーショナル・サーバーへの接続を定義します。

このタスクについて

次の図は、MDM サーバーにデータを書き込むために、メンバー書き込み対話モードの MDM Connector ステージを使用する例を示します。この例で、ODBC Connector ステージは Transformer ステージにデータを転送し、そのステージで、データは変換されて MDM Connector ステージに転送されます。MDM Connector はデータを MDM サーバーに書き込みます。このジョブには、オプションのリジェクト・リンクが組み込まれているので、MDM Connector は、リジェクトされたレコードをその保管場所のステージに転送します。この例では、リジェクトされたレコードは Sequential File ステージに保管されます。

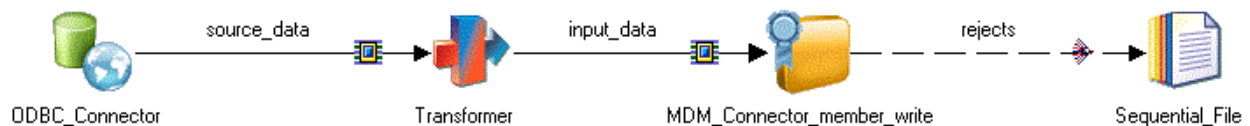


図 3. MDM サーバーにデータを書き込むための MDM Connector ステージの使用例

リンクでの列定義の設定

リンクに対して設定する列定義は、コネクタがデータベースとの間で読み書きするデータ・レコードのフォーマットを指定します。

手順

1. ジョブ・デザイン・キャンバスで、コネクタ・アイコンをダブルクリックします。
2. 以下のいずれかの方法で、列定義をセットアップします。
 - リポジトリ・ビューからジョブ・キャンバス上のリンクに表定義をドラッグします。次に矢印ボタンで、「使用可能な列」リストと「選択された列」リストの間で列を移動します。
 - 「列」ページで、「ロード」をクリックして、メタデータ・リポジトリから表定義を選択します。次に、表定義からリンクに適用される列を選択するために、「使用可能な列」リストから「選択された列」リストに列を移動します。
3. 以下のようにして、列のプロパティを構成します。
 - a. 列グリッド内を右クリックして、メニューから「プロパティ」を選択します。

- b. 表示するプロパティを選択し、その表示順序を指定してから、「OK」をクリックします。
4. オプション: 列定義を変更します。列名、データ・タイプ、およびその他の属性を変更できます。さらに、列を追加、挿入、または削除することができます。
5. オプション: 以下のようにして、新規表定義をメタデータ・リポジトリに保存します。
 - a. 「列」ページで、「保存」をクリックしてから、「OK」をクリックし、リポジトリ・ビューを表示します。
 - b. 既存のフォルダーにナビゲートするか、表定義が保存される新規フォルダーを作成します。
 - c. フォルダーを選択して、「保存」をクリックします。

データの書き込みのための MDM Connector の構成

MDM サーバーにデータを書き込むには、MDM Connector をメンバー書き込み対話モードに構成する必要があります。

手順

1. MDM Connector をダブルクリックして、MDM Connector ステージのプロパティを開きます。
2. 次のようにして、MemPut 対話を構成します。
 - a. 「プロパティ」ページの「使用法」セクションで、「MDM 対話モード」プロパティを「メンバー書き込み」に設定します。
 - b. 「プット・タイプ」、「マッチング・モード」、および「メンバー・モード」の値を指定します。
 - c. 「構成」をクリックします。「メンバー書き込み構成」ウィンドウで、入力列を、選択した属性からのフィールドにマッピングする必要があります。「モデル ID」、「メンバーのタイプ」、および「エンティティのタイプ」の値を指定します。「メンバーのタイプ」を選択すると、「メンバー属性」リストに使用可能な属性が表示されます。データを挿入する追加のメンバー属性を選択します。
 - d. 「次へ」をクリックすると、「列マッピング」パネルが使用可能になります。
 - e. 「列マッピング」ペインで、MDM 属性を、属性からのフィールドに関連付けます。「Memhead」として属性を選択し、memhead 属性からのフィールドを入力列にマッピングします。

明示（「Explicit」）メンバー・モードを選択した場合、行インジケータは対話レベルまたは属性レベルで定義できます。属性ごとに別々の行インジケータを定義する場合は、「カスタム構成」ウィンドウで、属性レベルで行インジケータを定義します。属性レベルで行インジケータが定義されていない場合、すべての属性はステージで定義されているものと同じ行インジケータを共有することになります。
 - f. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

エラーを含むレコードのリジェクト

MDM Connector にリジェクト・リンクが含まれている場合、指定された条件に一致するレコードはリジェクト・リンクのターゲット・ステージに自動的にルーティングされます。残りのレコードの処理は続行されます。

このタスクについて

リジェクト・リンクの構成に際して、レコードをリジェクトして、リジェクト済みレコードを受け取るターゲット・ステージに送る時期を制御する 1 つ以上の条件を選択します。また、レコードが失敗したときに MDM サーバーによって生成されるエラー・コードとエラー・メッセージを含めることもできます。リジェクト・リンクを定義しない場合、またはリジェクト・リンクは定義したが、失敗したレコードが、指定されたリジェクト条件のいずれにも合致しない場合、コネクタはエラーを報告し、ジョブを停止します。

ジョブを実行した後、リジェクトされたレコードを評価し、それに応じてジョブおよびデータを調整できます。

手順

1. ジョブ・デザイン・キャンバスで、ターゲット・ステージを追加し、リジェクトされたレコードを受け取るように構成します。
2. MDM Connector を右クリックしてターゲット・ステージにドラッグすることにより、MDM Connector からターゲット・ステージへのリンクを作成します。
3. リンクを右クリックし、「リジェクトに変換」を選択します。
4. コネクタをダブルクリックして、ステージ・エディターを開きます。
5. 「出力」ページで、「出力名」リストから、リジェクトされたレコード用のターゲット・ステージへのリンクを選択します。
6. 「リジェクト」タブをクリックします。
7. 「選択された条件に基づいて行をリジェクト」リストから、レコードをリジェクトするために使用する 1 つ以上の条件を選択します。
8. 次の表のいずれかの方法を使用して、リジェクトされた行数が多すぎるためにジョブを停止する場合のタイミングを指定します。

方法	手順
失敗した行のパーセンテージに基づいてジョブを停止する。	<ol style="list-style-type: none">1. 「異常終了条件」リストから、「パーセント」を選択します。2. 「リジェクト後に異常終了 (パーセント)」フィールドに、ジョブを停止する場合のリジェクトされた行のパーセンテージを入力します。3. 「この後にカウントを開始 (行数)」フィールドに、リジェクトされた行のパーセンテージを計算するまでに処理する入力行数を指定します。

方法	手順
失敗した行数に基づいてジョブを停止する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「異常終了条件」リストから、「行数」を選択します。 2. 「リジェクト後に異常終了 (行数)」フィールドに、ジョブが停止されるまでに許される、リジェクトされた行の最大数を指定します。

9. オプション: 「リジェクト行に追加」リストから、「**ERRORCODE**」または「**ERRORMESSAGE**」、あるいは両方を選択します。レコードが失敗すると、リジェクトされたレコードには、エラー・コードと、それに対応する失敗について説明したメッセージが組み込まれます。
10. 「**OK**」をクリックして、ジョブを保存します。

参照

MDM Connector ステージを正常に使用するには、データ・タイプのマッピングやステージ・プロパティに関する情報など、詳細情報が必要になることもあります。

InfoSphere MDM から InfoSphere DataStage へのデータ・タイプのマッピング

MDM Connector はメタデータをインポートするときに、MDM モデルの中のデータ・タイプを InfoSphere DataStage のデータ・タイプに変換します。

次の表は、MDM データ・タイプと InfoSphere DataStage データ・タイプの間のマッピングを示しています。この表で、*n* はサイズを示します。

表 1. MDM モデルでのデータ・タイプと、それに対応する InfoSphere DataStage のデータ・タイプ

MDM モデルでのデータ・タイプ	InfoSphere DataStage SQL タイプ	InfoSphere DataStage 長さ	InfoSphere DataStage スケール	InfoSphere DataStage 拡張
VARCHAR(<i>n</i>)	VARCHAR	<i>n</i>	未設定	未設定
CHAR(<i>n</i>)	CHAR	<i>n</i>	未設定	未設定
DATETIME	TIMESTAMP	未設定	未設定	未設定
UWORD	SMALLINT	未設定	未設定	未設定
UDWORD	INTEGER	未設定	未設定	未設定
SQWORD	BIGINT	未設定	未設定	未設定

MDM Connector のプロパティ

コネクタによるデータの読み取りまたは書き込みの方法を変更するには、以下のオプションを使用します。

「メンバー・データのマッチング」プロパティ

「メンバー・データのマッチング」プロパティを使用して、メンバー・データが更新された後でメンバー・データをマッチングするかどうかを指定します。

使用法

「メンバー・データのマッチング」プロパティは、次の表にリストされている値に設定できます。

表2. 「メンバー・データのマッチング」プロパティの値

値	説明
Immediate	メンバー・データが更新された直後に、メンバーをクロス・マッチングします。
DoNothing	メンバー・データを更新しますが、更新されたデータを、MDM サーバー内の他のメンバーからのデータとクロス・マッチングしません。更新が完了するとすぐに対話は制御を返し、メンバーがマッチングされないようにブロックします。
Deferred	メンバーのマッチングは、エンティティ・マネージャーが作業キュー内のこの場所に到達した場合のみ行われます。

「メンバー・モード」プロパティ

「メンバー・モード」プロパティを使用して、入力データからどのくらいの情報が書き込まれるかを指定します。

使用法

「メンバー・モード」プロパティは、次の表にリストされている値に設定できます。このプロパティに設定できるメインモードは、暗黙モードと明示（「Explicit」）モードです。「Partial」、「AttrComp」、および「Complete」の各メンバー・モードは、暗黙モードです。

表3. 「メンバー・モード」プロパティの値

値	説明
Partial	入力データに、メンバーについての完全な情報がない場合や、特定の属性の完全な値の範囲がない場合に、このオプションを選択します。
AttrComp	このモードは、「attribute complete (属性一式)」の略です。メンバー書き込み対話で、メンバーに存在するすべての属性に既知の値を含めるには、このオプションを選択します。
Complete	入力データに、このメンバーのタイプに定義されたすべての属性に対してすべての値が含まれている場合は、このオプションを選択します。

表3. 「メンバー・モード」プロパティの値 (続き)

値	説明
Explicit	保管されている属性のレコード状況を制御するには、このオプションを選択します。更新された各属性に対して、行インジケータとレコード状況を設定する必要があります。 「メンバー・モード」プロパティが「Explicit」に設定されている場合、「行アクション」プロパティは属性レベルで設定する必要があります。

「プット・タイプ」プロパティ

メンバー・データの追加方法または更新方法を指定するには、「プット・タイプ」プロパティを使用します。

使用法

「プット・タイプ」プロパティは、次の表にリストされている値に設定できません。

表4. 「プット・タイプ」プロパティの値

値	説明
InsertUpdate	まだメンバー・データが存在していなければメンバー・データを作成します。あるいは、既存のメンバー・データを更新します。
InsertOnly	存在しないメンバー・データを作成します。
UpdateOnly	既に存在するメンバー・データを更新します。メンバー・データが存在しない場合、対話は停止します。

第 2 章 環境変数: MDM Connector ステージ

MDM Connector ステージは、以下の環境変数を使用します。

CC_JVM_OPTIONS

ジョブが実行されるときに使用される JVM 引数を指定するには、この環境変数を設定します。

この変数が指定されている場合、その値は Java ベースのコネクターに対するデフォルト JVM 引数の値よりも優先されます。例えば、**CC_JVM_OPTIONS** を `-Xmx512M` に設定すると、コネクターの JVM インスタンスが作成されるときに最大ヒープ・サイズが 512 MB に設定されます。

CC_MSG_LEVEL

コネクターがログ・ファイルに記録するメッセージの最小重大度を指定するには、この環境変数を設定します。

デフォルト値 3 の場合、情報メッセージと、それより重大度の高いメッセージがログ・ファイルに記録されます。

以下に有効な値をリストします。

- 1 - トレース
- 2 - デバッグ
- 3 - 情報
- 4 - 警告
- 5 - エラー
- 6 - 致命的

付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

アクセシビリティ対応資料

インフォメーション・センターには、InfoSphere Information Server 製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。インフォメーション・センターでは、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。インフォメーション・センターでは XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターにある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

付録 B. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表 5. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja にアクセスしてください。
My IBM	www.ibm.com/account/jp/ja/ の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 http://www.ibm.com/training にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 www.ibm.com/connect/ibm/us/en/ にアクセスしてください。

付録 C. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

注: F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html

ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc⇒  
common/accessingiidoc.html
```

ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

付録 D. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム (www.ibm.com/software/awdtools/rcf/) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで comments@us.ibm.com に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。

特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 拡張されたユーザーのユーザビリティ シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 デジタル署名 セッション ID 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 内部 ID ツリーの状態 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

お客様サポート
連絡先 17

[カ行]

環境変数
InfoSphere Master Data
Management 13
コネクター
列定義 7

[サ行]

サポート
お客様 17
商標
リスト 23
製品資料
アクセス 19
製品のアクセシビリティ
アクセシビリティ 15
ソフトウェア・サービス
連絡先 17

[タ行]

特記事項 23

C

CC_JVM_OPTIONS 環境変数 13
CC_MSG_LEVEL 環境変数 13

M

MDM 1
MDM Connector
書き込み
構成 8
構成
データの書き込みのための MDM
Connector の構成 8

MDM Connector (続き)
構成 (続き)
データの読み取りのソースとしての
MDM Connector の構成 4
ジョブ定義 2
ジョブのデザイン 1
データベース接続 3
データ・タイプ
MDM から InfoSphere DataStage
へのマッピング 10
プロパティ
プット・タイプ 12
メンバー・マッチング・モード 11
メンバー・モード 11
変更
ステージのプロパティの変更または
は出力リンクに定義されている列
の変更 5
マッピング
MDM から InfoSphere DataStage
へ 10
読み取り
構成 4
MDM メタデータ 2
MDM メタデータ
インポート 2

O

Oracle Connector
書き込み
レコードのリジェクト 5, 9
レコードのリジェクト
構成 5, 9



Printed in Japan

SC43-1612-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21